富士市における合併調査

特別委員会の状況

北九州市視察結果の意見交換

A　北九州市がなぜ合併しなければならなかったか、ということが話されたわけでございますが、共通して言えることは、あそこがいわゆる鉄と石炭、しかも関連産業が非常に多く、合併されるということは必然だと思う。

北九州の場合は工業の発展からくる産業基盤の再開発のほうが本旨のように思われます。住民環境の福祉ということも合併の中で地位を占めていると思いますが、いずれにしても工業の促進の合併だと思います。

そこで、タッチゾーン方式ですが、先程の報告にもそれが障害になっているということ、私もそう思うのです。

産業基盤の整備ということは、どうしても住民のサービスの促進がはかれないじゃあないかと思う。

それで当地区の合併はどうかということを考えてみますと、田子の浦港を中心としたところの地域開発ということで、産業基盤の整備ということが主眼になってくると、どうしても住民福祉というものは置去りになってしまう。

B　市民に約束されたのは市民サービスを絶対に低下させないということを前提に合併をやられた。で、これはタッチゾーンを採用せざるを得ないということになってくると思います。

それで北九州の場合市民サービスは絶対に低下させない現在の機構をそのままやるのが一つの約束、多角的都市をつくるのだということで産業基盤の整備をしなければならない。そういうことの二つの柱がでてきたと思う。

ところがやってみて市民のサービスはそのままであるから経費がかかる、ほかの財源がなければ産業基盤については何も手がつけられないということです。

ですから新規の事業が手がつけられない。

この地区が合併したにしましても産業基盤の整備をすることによって、市民のサービスを低下させていかなければならないじゃないかという形になると思うのです。

C　北九州の合併の場合には政令指定都市とか、大規模資却資産とか恩恵があったが、岳南地区の場合は余り恩典がない。よほど堅実なプランをたてて、住民の行政水準の低下をさせないようにすることが必要だ。

D　ちょうど建設委員会で頭をしぼっている二市一町の建設計画（継続事業を指す）の今後五ケ年間の計画は、それは一種のタッチゾーンの形になるのではないか？

A　従来の実績、財政の伸びから、あの継続事業というものはかなり制約がでてくると思います。

E　合併すれば相当税収があるということで我慢してやった。合併すれば何とかなるということで合併したそのように何とかなるということの前提でやったならばとんでもないことになる

D　合併促進協議会でもこれは、県なり国なりの相当の指導があるわけなんです

財政的なバックアップがなければ二市一町の建設計画が実現できないと思いますが、合併したらタッチゾーンは決してやらないというつもりであるわけでございますそういう重大なときに北九州市を見てきたわけですがこれから一、二ケ月が重要な時期でありますから、これからの協議会をどのように進めていったらいいか。

D　少なくとも二市一町の議員が一同に会して話し合うぐらいの機会がないと意志の疎通ができないと思う

当局　いまのお話の議員が一同に会する機会については措置を考えてみたいと思います。

先程ご意見もあったわけですが、新市の計画を立案することにつきまして、社会開発と住民の利益の二つの考え方をもつて作業を進めております。

建設委員会関係につきましてお話がでましたけれども、端的に申し上げますと新規の建設計画をどうするかということを始めたわけであります。特に財政計画にマッチした建設計画を進めます。先日も参与会を開きまして、大体の事務の草案をまとめました。

あまり時間がありませんから簡単に申し上げますと八三億六・五〇〇万円の継続事業費をどう制約するかで新規の事業計画を盛り込んでいかなければならないもう一つは県の第六次総合開発計画の駿河湾西地区の開発計画の問題と、この事業計画も総合されております。

さらにまた、継続事業というのは、吉原、富士両市は二千万円、鷹岡町は五〇〇万円以上の継続事業が対象となっておりますが、実際に新市が運営されれば、それ以下の事業をやらざるを得ない。その場合の適正額を配慮すべきでありかような点を考えまして財政的な裏付けはどうかということになります。もう一度やり直し、財源をあたり直しましてこの位の金が使えるのではないか、かような点でいま付け加えております

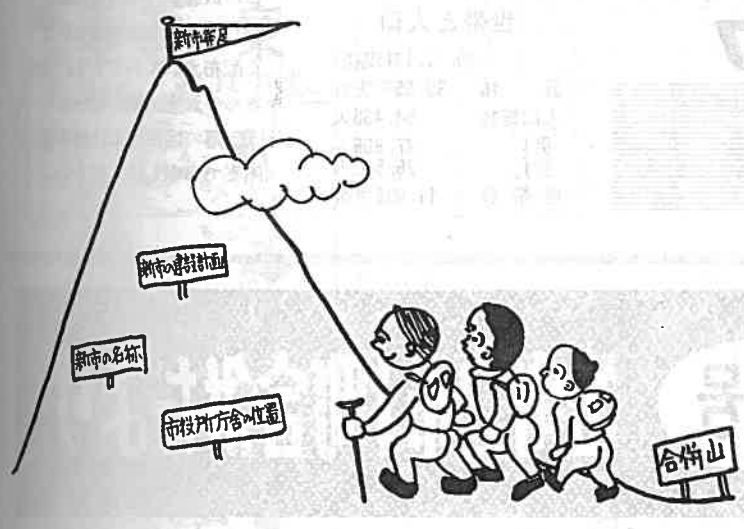
建設計画というものは先程お話しがありましたように産業基盤整備事業は若干問題があるわけでございますが、やはり住民の生活に直結する仕事をやるということを急いでやっております。

議長　ただいま当局より今後の方針につきまして簡単な説明を聞いたわけでございますが、私どもこれからのいき方でございますが、将来悔いのないように議員としての職をつくしたいと思います。

（写真・北九州市小倉区役所において）

タッチゾーン方式の解説

北九州市が合併に当って協定した基本方針で「合併に当っては、市民生活上重大かつ急激な変化影響をきたすことのなきよう、行財政に必要な措置をしなければならない。」という五ケ年間の経過措置を講じた。いわゆるタッチゾーン方式である。合併年次（38年度は50日間だけ）を含む六ケ年は経過措置ということで従前の市の収入でその市（地区）の才出を賄う。新市としての新規事業のみ新財源でということである。議員報酬から職員給与まで一切従前の市で賄うわけであるから、新市としての一体性に欠けるのは当然である。



協議会の協議のすすめ方

岳南2市1町合併促進協議会

会長　富士市長
副会長　吉原市長
〃　鷹岡町長

総務委員会

定数12名

委員長　篠原　博（鷹岡町議長）
副委員長　小出雅清（吉原市副議長）
委員
斉藤滋与史（吉原市長）　小林清三郎（吉原市議員）
遠藤松吉（吉原市議員）　大村光男（鷹岡町議員）
磯野儀太郎（鷹岡町議員）　佐野一夫（鷹岡町学経）
漆畑五六（富士市長）　佐野晴雄（富士市議員）
佐野喜郎（富士市議員）　山田金吾（富士市学経）

建設委員会

定数12名

委員長　勝又竹雄（吉原市議長）
副委員長　渡辺作蔵（富士市副議長）
委員
小沢政雄（吉原市議員）　望月政三（吉原市議員）
増田貞蔵（吉原市学経）　植田義次（鷹岡町長）
浅井光義（鷹岡町議員）　鈴木政彦（鷹岡町議員）
高木秀男（鷹岡町学経）　服部国太郎（富士市議員）
羽切松雄（富士市議員）　斉藤新作（富士市学経）

行政委員会

定数12名

委員長　渡辺春恵（富士市議長）
副委員長　井出　淳（鷹岡町副議長）
委員
青木武雄（吉原市助役）　中村新吾（吉原市議員）
川島泰作（吉原市学経）　山田由太郎（吉原市学経）
市川常義（鷹岡町助役）　井出虎男（鷹岡町議員）
澤沢恒夫（鷹岡町学経）　遠藤　栄（富士市助役）
芝田幸太郎（富士市議員）　岩辺藤作（富士市学経）

合併協議会事務局

（富士市役所内）

会議メンバー

協議される項目　（24項目）

1　合併の時期
2　合併をする市町の範囲
3　新市の名称
4　新市の事務所（仮事務所を含む）の位置
5　議会の議員の任期及び定数
6　農業委員会の委員の任期及び定数
7　支所、出張所等の位置、名称及び所管区域
8　特別職の職員の身分の取扱い
9　各種公共団体の取扱い
10　各市町の慣行の取扱い
11　他の係に属さない事項

12　新都市建設の基本構想及びその根幹となるべき事業
13　各市町の継続事業との取扱い

14　新市の行政機構
15　一部事務組合の取扱い
16　一般職の職員の身分引継ぎに関する事項
17　条例及び規則の取扱い
18　財産、公の施設、債権及び債務（その他すべての権利、義務を含む）の取扱い
19　市町税の取扱い
20　新市の財政計画
21　使用料及び手数料の取扱い
22　消防団の取扱い
23　末端行政機構の取扱い
24　各種団体に対する補助金、交付金、融資その他住民サービスの取扱い